

インフルエンザワクチン予防接種について(説明書)

インフルエンザは罹患率が高く、高齢者や慢性疾患を持つ患者は肺炎を併発し重篤化になりやすい疾病です。インフルエンザの潜伏期間は1～3日間で、発熱や頭痛、筋肉痛などの全身症状が突然現れます。合併症がなければ約1週間で軽快します。

インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザワクチンの接種で、ある程度の発病を抑えることができます。また、重症化や合併症の発生を予防する効果が証明されています。(接種しなかった場合と比べ約45%の発病を阻止し、約80%の重症化による死亡を阻止)

ワクチンが十分な効果を維持する期間は、接種後約2週間後から約5か月とされています。このことから、インフルエンザが流行する時期を考え、10月から12月中旬までの間に行うことが適当とされています。

予防接種を受けることができない方

1. 接種当日、明らかに発熱のある方(通常 37.5 度以上)
2. 重い急性疾患にかかっている方
3. ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを起こしたことが明らかな方
4. インフルエンザの予防接種で、接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある方
5. その他、医師が予防接種を行うことについて不適当な状態と判断した方

予防接種を受ける際に、担当医と相談が必要な方

1. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患がある方
2. 過去にけいれんを起こしたことがある方
3. 過去に免疫不全の診断がされている方、近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
4. 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患がある方
5. ワクチンに含まれる成分によってアレルギーが起こるおそれがある方

副反応

(1) 比較的多くみられる副反応

接種部位の赤み、腫脹、疼痛、発熱、頭痛、悪寒、倦怠感等※これらは通常2～3日で消失

(2) まれに起こる副反応

ショック、アナフィラキシー様症状(発疹、じんましん、発赤、掻痒感、呼吸困難等)

(3) その他重度の副反応

ギラン・バレー症候群、けいれん、急性散在性脳脊髄炎、脳症、脊髄炎、視神経炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作等

インフルエンザワクチン接種後の注意事項

1. 予防接種後24時間は副反応の出現に注意し、観察しておく必要があります。特に接種直後の30分以内は急激な健康状態の変化に注意してください。
2. 接種後は、接種部位を清潔に保ち、接種当日は過激な運動や大量の飲酒を避けてください。
3. 予防接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしてください。

ワクチン接種による健康被害の救済制度

定期接種を受けたことにより、健康被害が発生した場合には、救済給付を行うための制度(予防接種健康被害救済制度)がありますので、本巢市役所健康福祉部健康支援課へご相談ください。